

欧米の独立系石油会社



もっと CO2 が欲しい Denbury Resources

米国の陸上にはまだまだ石油があります

老朽油田での原油の増進回収(enhanced oil recovery)に CO2 が使用されていますが、米国ではその CO2 のほとんどは「天然もの」です。

テキサス州プラノを本拠地とする石油開発会社 Denbury Resources は、ミシシッピ州の州都ジャクソンからそれほど遠くない Rankin 郡北部の地下から純度約 99%の CO2 を採取して、主に同州にある自社の老朽油田にパイプラインで輸送しています。

この 6 月に開催された上院の公聴会で同社の Evans 副社長が、「当社はミシシッピ州で最大の石油開発会社であり、増進回収に使用している CO2 の量でも米国最大級の会社のひとつである」(2008 年 6 月 12 日、Congressional Testimony by CQ Transcriptions)と語っています。

Denbury Resources は、1999 年に最初の老朽油田を買収し、現在も買収を続けています。

同社は 2001 年に、Rankin 郡にある Jackson Dome と呼ばれる CO2 のガス田およびパイプラインを工業用・特殊ガス供給会社 Airgas から買収しました。

Airgas は 1996 年に Shell からこの資産を引き継いでいます。

余談ですが、現在、世界最大の規模で CO2 による増進回収を行なっているのは Occidental Petroleum の子会社 Occidental Oil and Gas です。

この会社も、コロラド州の McElmo Dome と呼ばれる CO2 のガス田で採取される天然の CO2 を使用していますが、このガス田も Shell の遺産です。

CO2 が足りない

今、「CO2 による原油の増進回収の長い歴史のなかで初めて CO2 の供給が間に合わない状況になって」(2008 年 3 月 1 日、New Technology Magazine)います。

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 8 月 7 日)

CO2 が不足するなかで Denbury Resources は、どのような CO2 にも積極的です。

例えば、合成燃料油製造技術会社 Rentech がミシシッピ州 Adams 郡の Natchez 市の近郊で計画しているプラントが完成すれば、副生する CO2 を購入することになっています。

Rentech は、石油コークス、石炭およびバイオマスのガス化プラントおよび Fischer-Tropsch 合成プラントを建設して自動車燃料等を製造する計画です。

すでに「建設用地も確保されて」(2008 年 6 月 4 日、Business Wire)いますが、プロジェクトの実現のカギは政府の経済支援です。

複数の原料を使用しますが、CTL (Coal-to-Liquids) プラントとしての課税控除を期待していると思われま

す。現在、この種の課税控除の法案が議会で審議されていますが、政党間で議論が分かれています。

ひとこと

話を戻して、Denbury Resources は、天然の CO2 の増産に精力的に取り組んでいます。

CO2 のガス田の探査の範囲を、従来の Rankin 郡から「北隣の Madison 郡全域にまで拡大して」(2008 年 7 月 29 日、Clarion-Ledger)います。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)